芦屋市指定文化財候補（八十塚古墳群出土双龍環頭大刀）に関する調査報告

芦屋市文化財審議会会長（考古専門委員）　安部みき子

八十塚古墳群出土双龍環頭大刀の文化財指定にあたり，近畿地方で出土している双龍環頭大刀柄頭を比較検討する必要がある。そこで，御園古墳（尼崎市）出土の柄頭を調査した。

日　時：　平成２９年２月３日　午後３時～５時
場　所：　尼崎市立文化財収蔵庫（尼崎市南城内１０番２号）
調査者：　安部みき子（芦屋市文化財保護審議会　考古専門委員）
　　森岡秀人（芦屋市教育委員会社会教育部生涯学習課　学芸員）
　　森山由香里（芦屋市教育委員会社会教育部生涯学習課　学芸員）
対応者：　益田日吉氏（尼崎市教育委員会社会教育部 歴博・文化財担当　課長）
　　髙梨政大氏（尼崎市教育委員会社会教育部 歴博・文化財担当　学芸員）
　　井上亮氏（尼崎市教育委員会社会教育部 歴博・文化財担当　学芸員）

調査結果：

- 御園古墳（尼崎市塚口本町）は，全長約６０ｍの古墳時代中期の前方後円墳である。追葬の組合せ式石棺（尼崎市指定史跡）から多量の鏡・玉・剣が発見されたと伝えられている。
- 今回調査した双龍環頭大刀柄頭は，古墳時代後期に製作されたもので，追葬時の副葬品であると考えられる。
- 柄頭の環状部は直径約６ｃｍで八十塚古墳群出土例よりかなり小さい。
- 本柄頭の龍は双方が反対を向き，それぞれに玉を加えている。また，体部も２頭が絡み合った表現であり，一般的な双龍の表現とは多くの点が異なる。
- 環状部は厚みがあり，側面の彫りは八十塚古墳群出土例よりも複雑である。また，龍がくわえている玉の位置が眼より下にあることから，この柄頭の製作年代は６世紀後半でも、八十塚古墳群出土例より古いと推察される。

以上が御園古墳出土の柄頭の調査結果である。

装飾大刀は，所有者の身分や階層を示すものとして，畿内政権から配布されたと考えられている。八十塚古墳群出土例が著しく変形していることや，御園古墳例が一般的なものとは異なる形態をしていることは，阪神間の古墳の被葬者と畿内の王権勢力との関係を考察する上で重要な要素であると考える。

以　上